1. 授業の概要(ねらい)

英語という言葉が、どのような道筋を経て現在のよう形をとるに至ったかを、歴史上の出来事と関連付けながら概説します。何百年も前の英語も登場しますが、高等学校で古文・漢文を学んだように、英語の古典を読めるようにすることが目的ではありません。英語という言葉の歴史的発達を眺めることで、「言語は変化し続ける」という性質を、実感してもらえればと思います。

また、ただ講義をきいて、「へえ～、そうなんだ」といった感想で終わらせないため、毎回、講義の内容に関連した英文を読んでもいきます。

2. 授業の到達目標

1. 英語という言葉の発達に大きな影響を与えた歴史上の出来事の内、幾つかを説明できる。
2. 言語学の知見を、効率的な英語学習に役立てる。例：英語の綴りと発音の対応
3. やや専門的な英文を読んで、大意を理解できる。

3. 成績評価の方法および基準

原則として、期末試験100%で評価します。試験には、ノート・参考書・配布プリント・(紙製の)辞書など、ほぼすべて持ち込み可です。ただし、スマホなど通信機器・電子機器類は禁止です。合格ラインは、概ね50点程度です。もしも、授業が難しく試験ができるか不安だという場合には、試験前に(希望者だけが提出する)レポート課題を与えます。試験当日に課題を提出すれば、試験での不足分を多少補うことができます。ただし、このレポートは、授業内容の復習をかねて出す課題であり、「授業に出なくても、レポートを出せば単位が取れる」という意味ではありませんので、誤解しないで下さい。

4. 教科書・参考文献

教科書

テキストは使わず、必要に応じてプリントを配布します。

参考文献

Melvyn Bragg The Adventure of English Hodder and Stoughton

5. 準備学修の内容

教科書がないため予習は不要ですが、その分復習が必要で、授業では、大まかな流れ・重要なポイントしか板書しません。キーワード等を出発点に、図書館の参考書を利用して発展学習をすると、より理解が深まり、大学生らしい勉強になります。

6. その他履修上の注意事項

旧カリキュラムまたは他学部で履修する場合は、『英語史』に相当します。カリキュラムによって配当年次が異なるので、注意してください。参考までに、旧カリキュラムにおける合格率は、2016年度が約69%、2017年度が約74%でした。2018年度は約85%にアップしましたが、受講者の9割を占めていた4年生が「卒業のために頑張った」ためと思われる。決して楽な科目ではありません。自ら「何かを学び取りたい」という意欲に欠ける人は、他の授業を探すことをお勧めします。また、授業妨害とみなされる行為があった場合は、期末試験の受験資格を剥奪します(ので、当然不合格となります)。

7. 授業内容

- 【第1回】 国際語としての英語
- 【第2回】 英語のルーツ(1)…印欧祖語
- 【第3回】 英語のルーツ(2)…ゲルマン人の侵入
- 【第4回】 古英語期(1)…基本語彙とケルト人・ローマ人の影響
- 【第5回】 古英語期(2)…ヴァイキングの襲来
- 【第6回】 中英語期(1)…ノルマン人による征服
- 【第7回】 中英語期(2)…チョーサーの時代
- 【第8回】 近代英語期(1)…印刷技術とルネサンス
- 【第9回】 近代英語期(2)…大母音推移
- 【第10回】 近代英語期(3)…本格的な辞典・文法書の登場
- 【第11回】 現代英語期…自由民権運動・科学技術の急速な発展
- 【第12回】 米語と英語…語彙・発音・文法などの相違点
- 【第13回】 オーストラリア・ニュージーランドの英語
- 【第14回】 その他、様々な国の英語…アジア・アフリカの旧植民地
- 【第15回】 まとめと期末試験